

II 看護要員の配置

1. 看護要員総数

2,878病院が看護要員数について回答した。これらの病院で働く看護要員の総数は428,258名である。そのうち病棟に配置されている者は75.0%, 外来が12.9%, その他の部門(手術室・集中治療部門・訪問看護部門・看護部など)が12.1%である(図1)・《統計表第23表》。

なお, パートタイマー・アルバイト等一般の正規職員よりも勤務時間が短い場合, また, 複数の部署・部門を兼務する場合は, 正規職員の週所定労働時間数を基準に実際に勤務した時間を時間割比例計算で要員数として算入している。

2. 病 棟

病棟の看護要員の構成は, 「看護婦(保健婦・助産婦を含む)」64.6%, 「准看護婦」18.6%, 「看護補助者」16.8%である《統計表第23表》。

病棟の看護要員の構成は病院の種類により異なっている(表2)。「特定機能病院」「総合病院」では「看護婦」比率が高く, 「老人病床を主とする病院」では「看護補助者」の構成比が看護要員全体の半数を超えている。

一般病棟配置の看護要員の構成を表3に示す。「新看護」の「2対1」看護料を算定する病院で特に「看護婦」比率が高くなっている。「2対1」看護料を算定する場合は「看護補助料」は算定できないが, それにもかかわらず必要に応じ看護補助者が配置されていることが分かる。

一般病棟に配置された看護職員1人に対する平均入院患者数(調査当日の一般病棟の在院患者数)は2.05人, 看護要員1人あたりでは1.78人である《統計表第34表》。表4は算定する看護料の種別ごとに看護職員・要員1人当りの入院患者数を示したものである。「2対1」看護料を算定する病棟では, 「患者2人に対し看護職員1人以上」

図1 看護要員の配置部門別構成比

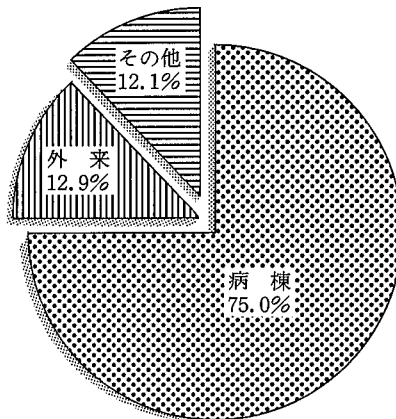


表2 病棟配置看護要員の構成比(%)：病院種類別

	看護婦※	准看護婦	看護補助者
一般病院	54.1	26.9	19.0
総合病院	77.8	11.8	10.4
特定機能病院	87.3	3.5	9.2
精神病床を主とする病院	43.6	35.3	21.2
老人病床を主とする病院	18.9	29.1	52.0
その他の病院	44.9	27.4	27.6

※看護婦：保健婦・助産婦を含む

表3 一般病棟配置看護要員の構成比(%)：算定看護料別

	看護婦※	准看護婦	看護補助者	
新看護	2対1	83.5	7.5	9.0
	2.5対1	75.2	13.3	1.5
	3対1	51.7	28.3	20.0
	3.5対1	31.1	37.1	31.8
	4対1	25.9	40.0	34.1
基準看護	特3類	73.7	14.9	11.4
	特3+特2	73.7	14.2	12.1
	特2類	57.0	27.3	15.8
	特1類	50.4	30.4	19.2
	1類	68.1	20.8	11.1
	基本看護	22.3	50.6	27.1
その他看護		42.5	36.8	20.6

※看護婦：保健婦・助産婦を含む

という算定要件に対し、実際には患者1.81人に対し看護職員1人の配置がなされている。

3. 外 来

外来の看護要員構成は、「看護婦」53.7%、「准看護婦」34.1%、「看護補助者」12.2%である《統計表第23表》。病棟と比較して「准看護婦」の比率が高い。

外来に配置された看護職員1人あたりの1日外来患者数は25.6人だが、特定機能病院では他の種類の病院より多く32.8人である《統計表第35表》。

4. その他の部署

(1) 手術室

手術室が「ある」と回答した病院は2,374(78.5%)である《統計表第42表》。うち1,884

表4 一般病棟配置看護職員・看護要員1人あたり入院患者数(人):算定看護料別

	看護職員1人あたり	看護要員1人あたり	回答病院数
計	2.05	1.78	2313
新看護	2対1	1.81	423
	2.5対1	2.12	480
	3対1	2.22	619
	3.5対1	2.82	95
	4対1	2.77	93
基準看護	特3類	1.88	75
	特3+特2	2.07	135
	特2類	2.40	182
	特1類	2.29	3
	1類	2.64	53
	基本看護	1.71	19
その他看護	3.31	2.41	82

病院が手術室に専任看護要員を配置しており、1病院の平均専任看護職員数は9.5人、看護補助者などを加えた看護要員数は12.3人である。

稼動手術台1台当り看護要員数は平均3.2人である。「一般病院」3.1人、「総合病院」3.2人、「特定機能病院」3.4人と、病院種類による差はわずかである《統計表第43表》。手術室専任看護要員の夜勤体制は、自宅等で待機しながら呼び出しに備える「オンコール」が62.7%で最も多い《統計表第44表》。これに対し「特定機能病院」では、「3交代」45.3%、「2交代」が26.6%で、常時緊急手術に対応できる体制をとっているとみられる《統計表第45表》。

(2) 訪問看護・保健相談担当部署

訪問看護または保健相談を担当する独立した部署が「ある」と回答した病院は1049(34.7%)である《統計表第46表》。(なお、このうち243病院は訪問看護ステーションを併設している。これらの病院の回答内容などを詳しく見た結果、

病院から独立した組織である訪問看護ステーションの要員・実績・業務内容を、病院の一部門に属するものとして記入したものと判断して、専任要員配置・実績に関する集計に際してはこれらの病院を除外した。)

当該の部署で訪問看護を行っている病院は85.2%、保健相談を行っている病院は34.2%である。配置されている専任看護要員は1病院平均2.1名である。前回調査(2.4人)よりわずかに減少している。専任要員だけでなく他部署との兼務で業務を行う例が多いと推測される。

1995年9月の実績によれば訪問看護延べ件数は46,362件、1病院平均では86.3件《統計表第48表》で、前回調査(47.3件)より大幅に増加した。保健相談延べ件数は22,100件、1病院平均では110.0件《統計表第48表》で、前回調査(137.5件)と比べ減少している。

(3) ICU・CCU・NICU

ICUの設置形態は、「独立した部署として設

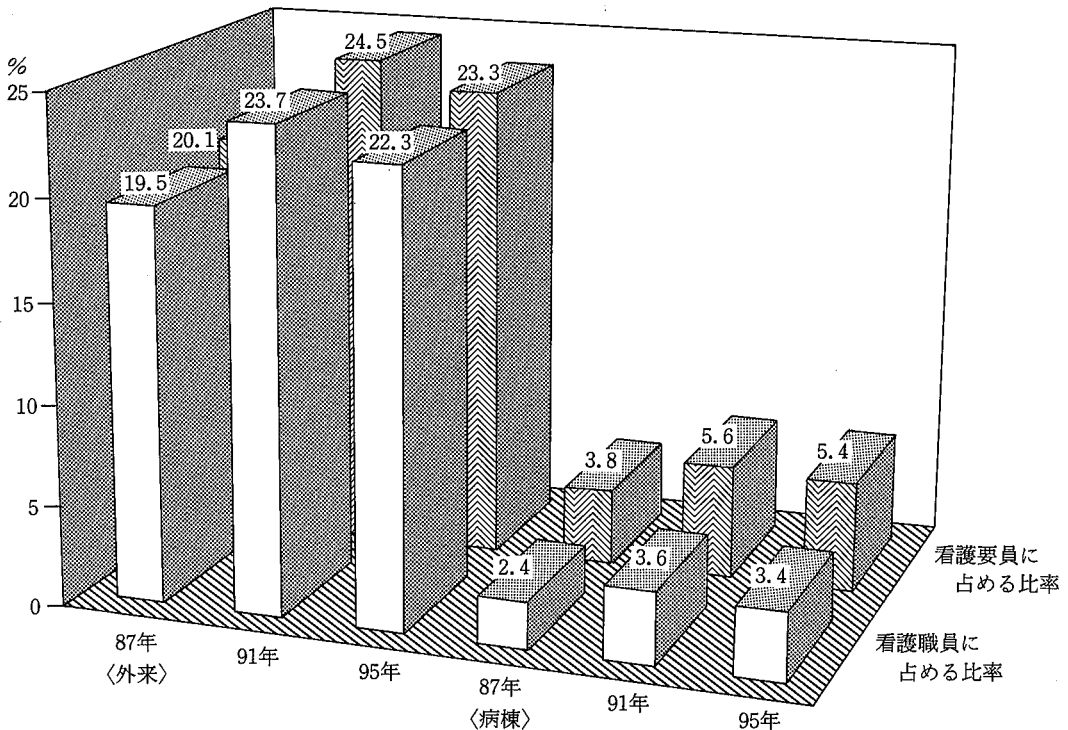
置」248病院 (8.2%)、「他の看護単位 (一般病棟) に含まれている」749病院 (24.8%)、「他の集中治療室と合併で設置」102病院 (3.4%)である。独立した部署として設置している病院では、1病院当りのICU病床数は平均8.7床、ICU病床1床あたりの専任看護要員は平均2.5人である。このうち、特定入院料である「特定集中治療室管理料」を算定している137病院では、1病院当りのICU病床数は平均7.8床、ICU病床1床あたりの専任看護要員は平均3.0人である《統計表第50表》。

CCUの設置形態は、「独立した部署として設置」44病院 (1.5%)、「他の看護単位 (一般病棟) に含まれている」350病院 (11.6%)、「他の集中治療室と合併で設置」85病院 (2.8%)

である。独立した部署として設置している病院では、1病院当りのCCU病床数は平均8.8床、CCU病床1床あたりの専任看護要員は平均2.3人である。このうち、特定入院料である「特定集中治療室管理料」を算定している27病院では、1病院当りのCCU病床数は平均7.4床、CCU病床1床あたりの専任看護要員は平均2.7人である《統計表第51表》。

NICUの設置形態は、「独立した部署として設置」90病院 (3.0%)、「他の看護単位 (一般病棟) に含まれている」251病院 (8.3%)である。独立した部署として設置している病院では、1病院当りのNICU病床数は平均14.8床、NICU病床1床あたりの専任看護要員は平均1.6人である。このうち、特定入院料である

図2 パートタイマー・臨時職員の比率の推移 (1987~95)



「特定新生児集中治療室管理料」を算定している61病院では、1病院当りのNICU病床数は平均14.8床、NICU病床1床あたりの専任看護要員は平均1.7人である《統計表第52表》。

(4) 救急部門

救急部門の設置形態は、「独立した部署（救命救急センターなど）として設置」176病院（5.8%）、「外来の一部としてある」1,544病院（51.0%）、「他の集中治療室と合併で設置」30病院（1.0%）である。独立した部署として設置している病院では、救急部門の専任看護要員は平均12.9人である。このうち、特定入院料である「救命救急入院料」を算定している89病院では、救急部門の専任看護要員は平均30.6人で

ある《統計表第53表》。

救急部門に専任看護要員を配置している場合の夜勤体制は、「3交代」38.9%、「2交代」12.8%、「当直制」30.5%、「オンコール」2.9%などである。このうち、特定入院料である「救命救急入院料」を算定している89病院では、「3交代」80.9%、「2交代」6.7%である《統計表第54表》。

5. パートタイマー比率

看護職員・看護要員に占めるパートタイマー・アルバイト・臨時職員の比率は、前回調査（87年）から前回調査（91年）にかけては病棟・外来ともに上昇したが、今回調査ではわずかに低下し

図3 男性看護要員の配属場所別人数

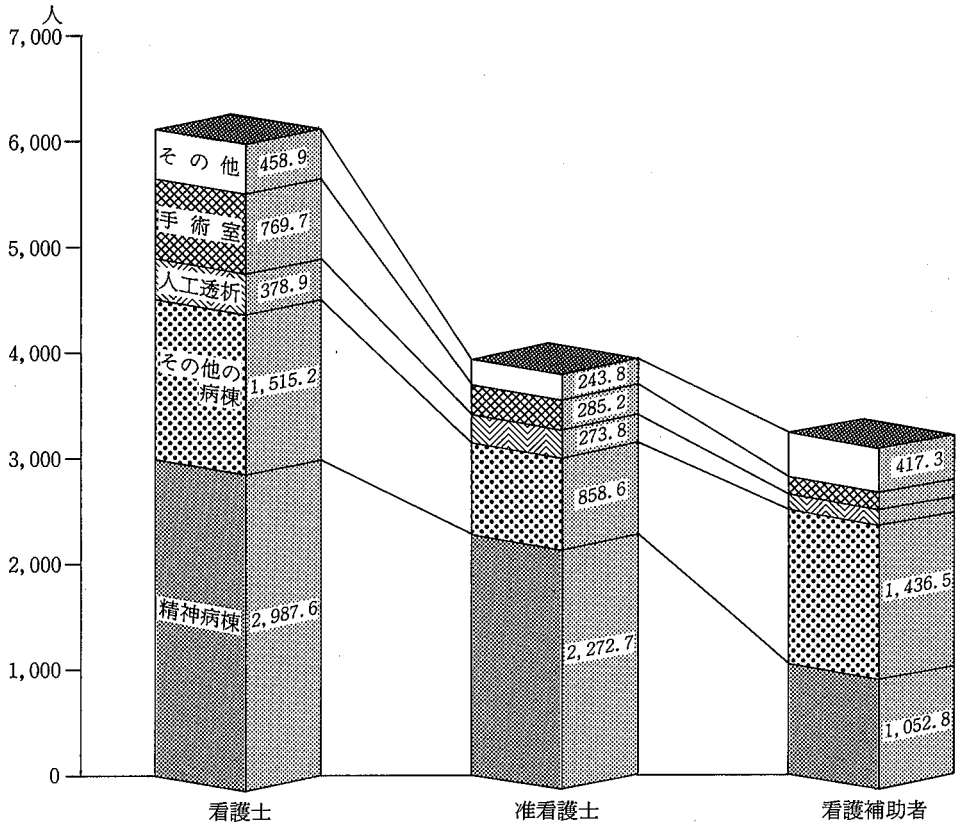
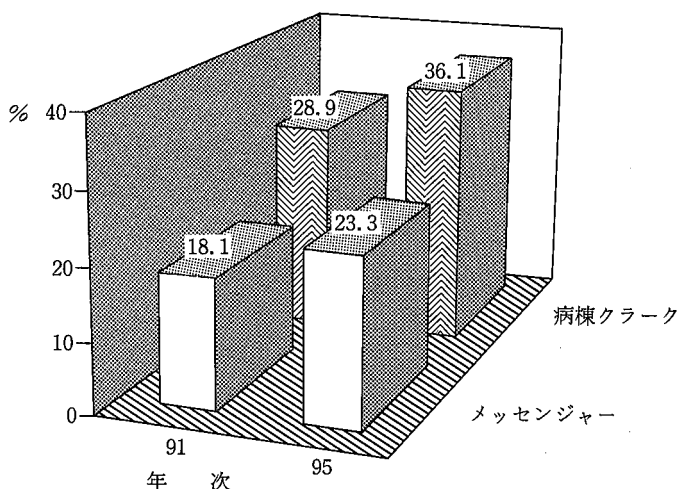


図4 病棟クラーク・メッセンジャーを配置している病院 (%)



ている (図2)。

外来は病棟と比較してパートタイマー比率が高いが、病院種類別には相違があり、看護要員に占める比率では「総合病院」が最も高く26.8%、「一般病院」は20.1%で、「特定機能病院」では13.7%である《統計表第23表》。

6. 男性看護要員の配置

男性看護要員 (看護師・准看護師・看護補助者) を配置している病院は1,704病院 (56.3%) で《統計表第39表》、前回調査 (49.7%) より増加した。病院種類別に男性看護要員を配置している病院の比率を見ると、「一般病院」44.0%、「総合病院」63.0%、「特定機能病院」88.2%、「精神病床を主とする病院」96.2%、「老人病床を主とする病院」60.1%、「その他の病院」55.6%である。男性看護要員の総数は13,237.3人、職種別の内訳は「看護師」6,110.3人、「准看護師」3,934.1人、

「看護補助者」3,192.9人である《統計表第39表》。配属場所別の人数を図3に示す。看護師・准看護師の配属先は「精神科病棟」が最も多いが、看護士については前回調査と比較して「精神科病棟」配属者の構成比が低下し、「精神科以外の病棟」が増加した。

7. 関連要員の配置

病棟クラークまたはメッセンジャーを配置している病院は、いずれも前回調査と比較して増加している (図4)。

病棟クラークを配置している1病院当りの病棟クラーク数は平均5.4人 (前回調査5.1人)、メッセンジャーを配置している1病院あたりのメッセンジャー数は平均4.7人 (同4.0人) で《統計表第41表》、いずれも前回調査と比較してやや増加した。